

◎基本情報

事務事業名	鳴門市体育協会運営支援事業		担当部署	教育委員会 体育振興室	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市体育振興事業補助金交付要綱	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 ▼ 5年度
政策(中項目)	4	生きがいあふれるまち なんと			終期
(小項目)		スポーツ・レクリエーション			
施策	3	生涯スポーツの振興			
基本事業	2	スポーツ活動の推進			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市体育協会						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市体育協会が継続的に運営できるように支援を行うことで、各競技団体の活動を推進する。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	生涯スポーツ及び競技スポーツを推進するために、各競技団体において市民体育祭をはじめとする大会を開催する。世界選手権大会、国民体育大会などのスポーツ大会へ出場する者に対して、出場補助金を支出する。毎年12月に表彰式を行い、体育・スポーツ活動に貢献した者、スポーツ大会で優秀な成績を残した者の功績を称え、スポーツに対する意欲を喚起し、スポーツ振興を図る。 体育協会への補助金については、支援目的を明確にすることで、加盟団体の普及活動や競技力の向上の取組を促進する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		全国大会等出場回数	20	20	20	20	20	回

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	各競技団体において市民体育祭をはじめとする大会を開催。国民体育大会等のスポーツ大会へ出場する者に対し、出場補助金を支出。12月に表彰式を行い、体育・スポーツ活動に貢献した者、スポーツ大会で優秀な成績を残した者の功績を称え、スポーツに対する意欲を喚起し、スポーツ振興を図った。各競技団体の大会開催回数や、市主催のイベントへの協力に応じて、活動費として補助金の支出を行った。						
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位	
活動指標 <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1	体育協会加盟競技者数	6,887	6,646	7,300	7,300	7,300	人
	2							
成果指標 <small>対象にどのような効果があったかを示す指標</small>		全国大会等出場回数	25	27	—	—	—	回
		目標達成率(実績/目標)		135.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり			

(千円)

財源内訳	平成28年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	0	0	0	1,245	1,245
		補正予算額		0	0	0	0	0	0
		繰越予算額		0	0	0	0	0	0
		全体予算額		0	0	0	0	1,245	1,245
		決算額		0	0	0	0	1,245	1,245
		繰越額		0	0	0	0	0	0
	人件費		正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.2	0.0	1,427		2,672			

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：鳴門市体育協会運営支援事業】

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	1,245	1,245	1,245	1,245	1,245
	うち一般財源	1,245	1,245	1,245	1,245	1,245
	人件費	1,372	1,427	1,427	1,427	1,427
	総事業費	2,617	2,672	2,672	2,672	2,672

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	国民体育大会などへ出場する者に対して、補助金の支出。表彰式を行いスポーツに対する意欲を喚起、スポーツ振興を図った。
	効率性	B:概ね効率的だった	各競技団体の大会開催回数や、市主催のイベントへの協力に応じて、活動費の支出をするなど、効率的に行っている。
②成果に対する評価	指標名	全国大会等出場回数	
	目標	20	回
	実績	27	回
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	各競技団体において市民体育祭をはじめとする大会を開くなど様々な取組がなされた。また、各競技団体への助成を通じてスポーツ振興への支援をおこなった。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	外部評価委員会において指摘のあった体育協会への助成について、体育協会の現状と課題を把握するとともに、今後の事業目標や助成制度のあり方について検討が必要との指摘があり、平成25年度に行ったアンケート調査の結果を基に内容の見直しを行い、支援目的を明確にすることで、加盟団体の普及活動や競技力向上の取組を促進していくこととなった。平成27年度より大会の開催や学校への指導者派遣など、積極的な活動を行っている団体への補助をより手厚くしている。今後も新助成制度を進めていく中で様々な課題に対応していく。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	平成27年度より開始した新助成制度により、大会開催や市民向けの教室をする等、精力的に活動している競技団体への補助を手厚くした。今後、制度を続けていく中で、各競技団体の意見も聞きながら、より良い支援が出来るよう検討していく。			
	H30年度	今年度の実施状況により、次年度以降検討する。			